

日本教育史研究部門

「高度経済成長期教育史」研究部会（第1回）

日時：2022年3月31日（木）13:00～14:50

場所：オンライン

出席：米田俊彦、大島宏、須田将司、鳥居和代、西山伸 各兼任研究員
吉久知延所長・山口和人・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：米田研究員「高度経済成長期教育史部会の発足にあたって」

- ・日本教育史部門では、「1950年代教育史」研究部会の兼任研究員全員を再任し、「高度経済成長期教育史」研究部会を立ち上げた
- ・60年代以降についてはまだ教育の通史的研究は少ない
- ・「1950年代教育史」の続きではなく、それぞれ新たにテーマを立てる

1. 先行研究（教育史）

- ・文部省『学制百年史』（ぎょうせい、1972年）
- ・大田堯編『戦後日本教育史』（岩波書店、1978年）
- ・教育の戦後史編集委員会『教育の戦後史Ⅲ』（三一書房、1986年）
- ・（参考）米田担当執筆（『Education of History in Japan(1600-2000)』Routledge, 2017年）
「第5章 高度経済成長期から低成長期への教育の展開」
→今後教育史以外の先行研究も参考にする

2. 「高度経済成長期教育史」のイメージ

企業社会の成立、進学・受験戦争、進学率急上昇→高等教育の大衆化、都市・農村の格差拡大
大学・就職実績による高校の序列形成、工業高校の地盤沈下、労働組合の存在感の低下、
性別役割分業の固定化、「登校拒否」現象の出始め、など

3. 今後の進め方

- ・対象とする時期は、1960年前後から1973年頃までとする
- ・それぞれテーマを立てて紀要『高等経済成長期教育史の研究』の各章を執筆する
- ・2027年3月の紀要刊行を目標とし、2026年夏頃までに原稿を仕上げる

- ・次回研究会 4月22日（金）13:00～ 鳥居・須田研究員
- ・次々回研究会 5月20日（金）13:00～ 大島・西山研究員